

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文語学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文語学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトバと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>									
専門分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△	◎	○	△
11046	フランス文学概説A	中世から18世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。				◎			◎		○
11047	フランス文学概説B	19世紀から20世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。				◎			◎		○
11048	フランス文学史A	中世から18世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。				◎			◎		○
11049	フランス文学史B	19世紀から20世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。				◎			◎		○
42401	フランス語史A	・フランス語がどのような言語であるかを学ぶ。 ・フランス語の元になったラテン語が、どのような過程を経て現在のフランス語の形を取るようになったのかを学ぶ。	2,3,4		*	○			○		○
42402	フランス語史B	フランス語史Aの習得後、中(期)フランス語から現代フランス語までのフランス語の歴史を考察する。	2,3,4	*		○			○		○
42403	フランス語圏概説A	フランス文学作品、文学潮流に触れ、その世界の文学における意義を把握できる。	2,3,4	*		○			○		○
42404	フランス語圏概説B	フランスとフランス語圏の歴史と現状について認識を深めることができる。	2,3,4	*		○			○		○
42405	フランス語圏研究A	フランス文学作品、文学潮流に触れ、その世界の文学における意義を把握できる。	2,3,4	*		○			○		○
42406	フランス語圏研究B	フランスとフランス語圏の歴史と現状について認識を深めることができる。	2,3,4	*		○			○		○
42407	フランス語学概説A	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語の何が、どのような部分が、研究テーマになるのかという問題に対し、意識をもつようになること。	2,3	*		◎			◎		
42408	フランス語学概説B	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語学概説Aと同様に、言葉の問題とは何かを継続的・発展的に考察していく習慣をつける。	2,3	*		◎			◎		
42409	フランス語文法概説A	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語の何が、どのような部分が、研究テーマになるのかという問題に対し、意識をもつようになること。	2,3	*		◎			◎		
42410	フランス語文法概説B	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語学概説Aと同様に、言葉の問題とは何かを継続的・発展的に考察していく習慣をつける。							◎		
42411	フランス文学特殊講義A	フランス語の詩に原文で親しむとともに、韻文独特の形式上の規則や詩的イメージを解釈する能力を身につける。				○			○		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文語学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文語学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の言語・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとつて必要不可欠な知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集、調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
42412	フランス文学特殊講義 B	19世紀フランス語文学作品(スタンダールなど)を読解し、その意義を知ることができる。	2,3		*	○		○
42413	古・中(期)フランス語 A	古・中(期)フランス語は日本の古典時期にあたる。この時期にラテン語からフランス語への進化の過程で形成されたフランス語の骨組みを学ぶ。	2,3,4	*		○		○
42414	古・中(期)フランス語 B	古・中(期)フランス語、すなわち13世紀後半から16世紀にかけては、現代フランス語へと大きく歩みだした時期である。この時代のテキストを読み、具体的に古・中(期)フランス語のしくみを理解する。	2,3,4	*		○	○	○
42415	フランス語学文献研究 A	ウンベルト・エーコ『バラの名前』という小説を通して、中世においてテキストはどのようにして生まれ、定着し、伝承されたかを学ぶ。	2,3,4	*		○	○	
42416	フランス語学文献研究 B	中世の作品には、一つの写本にしか収録されていない作品と複数の写本に含まれている作品がある。具体的な作品をとりあげ、写本からどのようにしてテキストを画定するか、そのプロセスと問題点を考える。	2,3,4	*		○	○	
42417	フランス文学分析研究 A	フランス語の詩に原文で親しむとともに、韻文独特の形式上の規則や詩的イメージを解釈する能力を身につける。	2,3,4	*		○	◎	○
42418	フランス文学分析研究 B	19世紀フランス語文学作品(スタンダールなど)を読解し、その意義を知ることができる。	2,3,4	*		○	◎	○
42419	フランス語文法論	フランス語を例として、ことばと社会(人間)の関わりについて考える。	2,3,4	*		○	○	
42420	フランス語学総論	・フランス語の形態、語同士の組み合わせ規則、形態素のもつ多義性や言葉の使用状況とその意味効果に関する問題について、知識を得る。 ・また、そのような言語事実とその理論的分析の仕方を学ぶ。	2,3,4	*		○	○	
42421	フランス語学特殊講義	フランス語の機能語のなかでも前置詞の習得は困難な学習項目の一つである。この前置詞に集中し、フランス語の特質や意味価値について考察する。	2,3,4	*		○	○	
42422	フランス語演習(読む・書く)A	フランス語の基本文法知識の確実な習得する。	2	*		◎	◎	◎
42423	フランス語演習(読む・書く)B	習得したフランス語知識を駆使して、平易なフランス語テキストを速読・多読できる能力を身につける。	2	*		◎	◎	◎
42424	フランス語演習(聞く・話す)A	フランス語でコミュニケーションができるようになるための言語的、社会的知識を身につける。						◎
42425	フランス語演習(聞く・話す)B	フランス語演習(聞く・話す)Aの発展的学習を行う。同様に、フランス語でのコミュニケーション能力を習得する。						◎
42426	フランス語学演習 A	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3	*			◎	◎
42427	フランス語学演習 B	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3	*			◎	◎
42428	フランス文学演習 A	フランス文学読解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2,3	*		◎	◎	◎
42429	フランス文学演習 B	フランス文学読解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2,3	*		◎	◎	◎
42430	フランス語作文表現法(基礎)	フランス語の語彙や表現法の知識を増やすと同時に、フランス語の発想で作文する能力を身につける。	2	*		○		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)													
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文語学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文語学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文語学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>													
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)													
<p>【学類のCP】 人文学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトバと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>	<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>	<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>								
専門分野のカリキュラム															
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期										
42431	フランス語作文表現法(中級)A	・自分が伝えたいことをフランス語で表現できるようになる。	3		*		○				○				
42432	フランス語作文表現法(中級)B	・自分が伝えたいことをフランス語で表現できるようになる。	3,4		*		○				○				
42433	フランス語演習(口頭表現法)A	・フランス語での中級口頭運用能力を習得する。 ・フランス文化/文明、フランス語圏に関する知識を高める。	3	*			◎	◎			◎				
42434	フランス語演習(口頭表現法)B	フランス語演習(口頭表現法)Aに引き続き、より発展したレベルのフランス語運用能力を身につける。	3		*		◎	◎			◎				
42435	フランス語演習(総合)A	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3	*				◎			◎				
42436	フランス語演習(総合)B	現代フランス語圏事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3		*			◎			◎				
42437	フランス語文法演習A	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3	*			◎				◎				
42438	フランス語文法演習B	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3		*		◎				◎				
42439	フランス文学分析演習A	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2,3	*			◎				◎				
42440	フランス文学分析演習B	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2,3		*		◎				◎				
31152	異文化体験実習Ⅰ(フランス)	フランスの大学での語学検収を体験し、フランス語の運用能力を向上させる。	2,3	*			○	○			○				
31203	異文化体験実習Ⅱ(フランス)	フランスでの生活体験を通じ、フランスの文化に触れ親しむ。	2,3	*			○	○			○				
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*				◎							
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*			◎							
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*			◎							

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>						
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)						
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。	外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	
専門分野のカリキュラム								
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期			
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。	1	*		◎		◎
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	◎		
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	○		
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*	○		○
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*	◎	○	◎
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*	◎	○	◎